

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成30年度農作物病虫害発生予察情報について

平成30年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成30年度農作物病虫害発生予報第1号

平成30年4月27日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月5半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.7%、本田生息虫数は0.1頭と、平年(12.5%、0.8頭)に比べてやや少ない。
- (2) 高松地方气象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 平成29年9月前半及び10月前半の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、平成30年3月中旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%、芽基部発病率が0.2%)。
- (3) 高松地方气象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が36.6%, 発病葉率が4.8%)。
- (2) 高松地方気象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より早い

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 2017年の勝浦町における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシでは8月第3半旬より急増し(図1), 極早生温州ミカン等で被害が認められた。また、ツヤアオカメムシでは、9月第5半旬より急増し10月第2半旬には855頭と平年の4.7倍誘殺された(図2)。

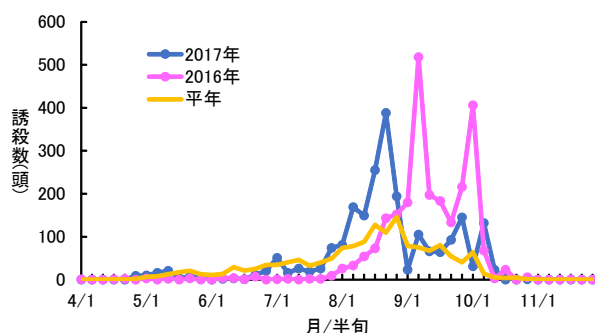


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

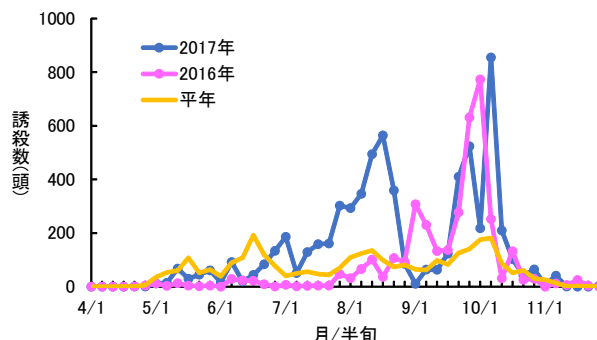


図2 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

上板町における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシでは、9月第3半旬には127頭と平年の12.7倍誘殺され(図3), 県北部のナシやカキで被害が認められた。また、ツヤアオカメムシでは、10月第1半旬には179頭と平年の6.2倍誘殺された(図4)。

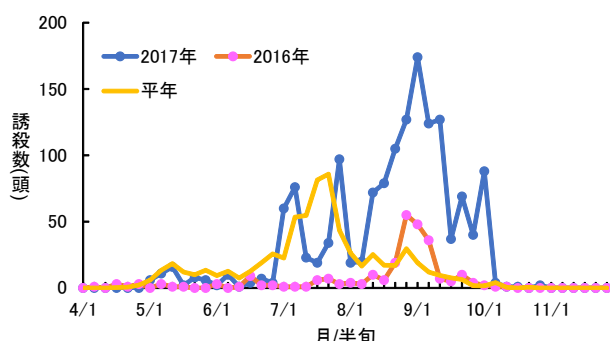


図3 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

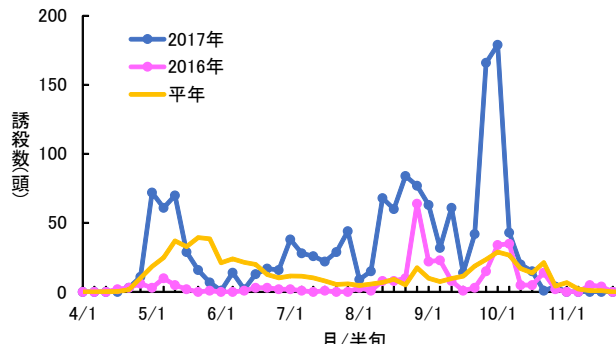


図4 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、8地点で越冬を確認、越冬成虫は0.9頭/m²であり、平年(1.5頭/m²)並で、前年(成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は2.5頭/m²)に比べて低い越冬密度であった。
- (3) 今春の予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月25日)より23日早い4月3日に、上板町では平年(4月26日)より7日早い4月19日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬から4月第5半旬までの誘殺数は、平年並で推移している。

(4)高松地方気象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1)予報内容

発生時期 平年並
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)4月5半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病株率が2.0%と、平年(5.3%, 0.5%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2)発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3)罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2)予報の根拠

- (1)4月5半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%、葉の被害度が7.2と、平年(54.9%, 3.9)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1)4月5半旬の巡回調査では、発生圃場率が77.8%と、平年(88.1%)並の発生であるが、葉の被害度は2.1と、平年(4.6)に比べてやや低い。
- (2)高松地方気象台が4月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3)被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4)春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。